

〈特別寄稿〉

図書館をさらに楽しく



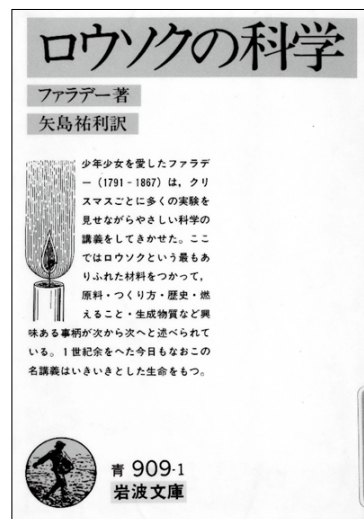
藤嶋 昭

医学の発展によって、かつて50年だった人間の寿命が今では80年以上になりました。もちろん私たちが健康に過ごすためには、十分な食料があり、空気や水がきれいな環境が必須ですし、もちろん医学の発展は欠かせません。ドイツのヴィルヘルム・レントゲンにより1895年X線が発見され、今では医学を始め各方面でX線が使われています。狂犬病といえば昔はおそろしい病気でしたが、免疫という考えのもと1885年ワクチンの開発に成功したのがフランスのルイ・パスツールですし、日本人では野口英世や北里柴三郎などの研究が知られています。また、2015年に熱帯の寄生虫が原因でおこる深刻な目の病気の治療法の開発でノーベル生理学・医学賞を受けられた大村智先生の研究もすばらしいものです。昨年ノーベル賞にかがやいた本庶佑先生のがん治療の研究結果も世界的に注目されています。

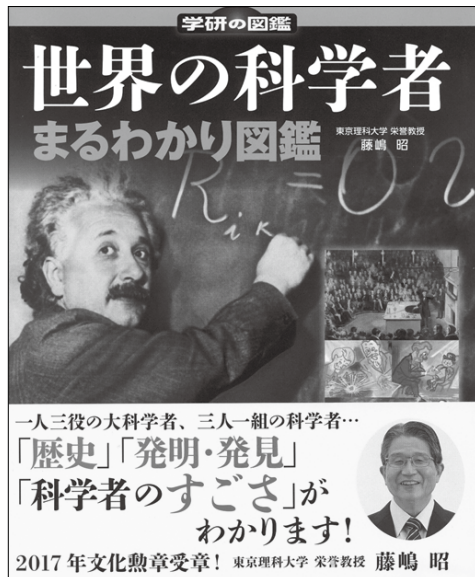
さて、科学の歴史を調べてみると、ギリシャ時代にまでさかのぼります。アルキメデス、ピタゴラス、アリストテレスの3人の働きが目立ちます。また中世での天文分野ではコペルニクス、ブラーエ、ケプラーという名前があがります。

化学の分野ではラヴォアジエ、アボガドロ、メンデレーエフ、そして物理の量子力学ではプランク、ボーア、シュレーディンガーが出てきます。不思議にも3人一組です。しかしもっと偉大な発見をした人は1人でも3つの大発見をしています。上述のパスツールもちろんそうですが、ガリレオであり、ニュートン、ファラデー、あるいはアインシュタインです。これらの研究者のうち私が親しみを感じて最も尊敬する研究者は、上述のイギリスのマイケル・ファラデーです。一人でコツコツと実験し、沢山のことを発見しましたが、その代表的な成果は、1831年、電気を作ることを実験で示した電磁誘導の発見です。コイルを巻いてボルタ電池で付加し電磁石とし、そこに磁石を出し入れして電流が流れる

ことを見つけました。70才の退官のときにはロンドン市民のためにロウソク1本だけを使って6回に渡る実験で科学のおもしろさを話したことで知られています。『ロウソクの科学』（岩波文庫／角川文庫）です。



そこで私は一人三役の大科学者、三人一組の科学者を『世界の科学者 まるわかり図鑑』（学研）として本にまとめてみました。



これらを本にまとめる時には、もちろん関連する本を集めて読むことが必須でした。

普段、私は大きな書店を1カ月に1回ぐらい、一巡してどのような本が最近出版されているのかを見てまわります。また新聞の新しい本の紹介記事を読み、注文することもたびたびです。もちろん一つのまとまった分野のことを調べるには大きな図書館の利用が必須です。県立川崎図書館を含めて、大きな公共の図書館の一番の特徴は、すでに古典的なものにもなっている良い本が多くそろえられていることです。そして私は借りることのできる10冊までを選んで、借りているのが常です。

以上のような経験から、科学技術の本をそろえている県立川崎図書館に対しての私の要望をまとめてみますと以下ようになります。ここでは例として物理や化学などの基本的な学問領域を念頭において考えてみたものです。

次のようにA, B, C・・・の順で本をそろえる；

- A) その分野に関連する重要な原理を発見した科学者、技術者の伝記をそろえる。
(小学生・中学生が読むような伝記もここに含める。)
- B) 代表的な大学生用の教科書をそろえる。もちろん古典的になってしまっているものも含める。
(小学生・中学生のためのやさしい解説書もできればここにそろえる。)
- C) 最新のやや専門的な解説書などをおく。

D) この分野の将来予測を解説した本もおく。

E) 関連する研究者、技術者の代表的な随筆集などをそろえる。

もちろんこれらは基本的で、重要な学問分野、例えば物理であれば量子力学、電磁気学など、化学であれば無機化学、有機化学、高分子化学などの分野毎、あるいはもっと大きく物理、化学、生物などの領域毎でも良いと思います。

いずれにしろ、読者が興味を持ってもらえるような配置を考えた本棚がいくつかあると、これが評判になって関係者間で話題になれば、すばらしいことではないでしょうか。

ふじしま・あきら
(東京理科大学 栄誉教授
光触媒国際研究センター長)